



WPRO 地域委員会決議：学校を健康増進の場に

保健担当大臣は、学校を生涯にわたる健康的な習慣を定着させることを目的とした決議を採択しました。

テドロス事務局長、再任へ

現事務局長以外の提案はありませんでした。

WHO：鉛の曝露管理に関するガイドライン

鉛にさらされた人を識別し、治療などを行うための新しいガイダンスを発表しました。

WHO：「交通安全の10年」

「交通安全のための行動の10年2021-2030」を発表しました。

ACT アクセラレーター新戦略：パンデミック終息に234億米ドルの国際投資

ACT Accelerator は、今後12ヶ月間の戦略的計画と予算を発表しました。

WHO：回復力のある健康的な都市づくりを

世界の人口の半分以上は、すでに町や都市に住んでおり、2050年には70%近くになると予想されています。

WPRO：結核の負担軽減の支援を決議

2019年に180万人が結核に罹患し、9万人が亡くなったと推定されています。

リーダーシップこそあらゆる脅威に究極のワクチン：G20にて

「ワクチンはパンデミックの終息に役立つが、パンデミックやあらゆる健康上の脅威に対する究極のワクチンは、リーダーシップ」とテドロス事務局長が発言。

インド製ワクチンを緊急使用リストに追加

COVAXINを8番目のCOVID-19ワクチンとして緊急使用リストに追加しました。

B群溶血性連鎖球菌に対するワクチンの開発が急務

GBSによる犠牲者を減らすために、妊婦用ワクチンの開発を早急に求めています。

アネット・ケネディ氏がグローバルヘルス・リーダーズ賞に

国際看護師協会の前会長ケネディ氏に対し、同賞が授与されました。

WHO：禁煙の提携枠組み設立を歓迎

13億人のたばこユーザーのうち、禁煙を成功させるためのツールを利用できるのはわずか30%にすぎません。

パリ協定とCOP26の成功の鍵 - WHO健康と気候変動報告書

気候危機がもたらす健康への影響は壊滅的な現実となりつつあります。

保健システム開発にも低炭素排出の約束

COP26において、47カ国が気候変動に強く低炭素の保健システムを開発することで一致しました。

WHOとラ・フランコフォニー国際機関がUHC、マラリア対策、WHOアカデミーに関する協定に調印

両者の協力関係に政治的・法的な裏付けを与える協定に署名しました。

国際機関とワクチンメーカー：COVID-19ワクチンの2022年に向けた見解を共有

低所得国により多くのワクチンを届けることが急務であることを確認しました。

COVID-19が麻疹対策の脅威に

ワクチンを受けていない子どもたちが多数いることなどにより、麻疹による死亡や重篤な合併症を引き起こすリスクが高まっています。

インスリンの普及：100年を経てなお格差

インスリンを必要とする人の2人に1人はインスリンを受けていません。

WHO：公衆衛生を行動学から共同研究

欧州委員会の共同研究センターと、公衆衛生政策に行動学的洞察を取り入れることを目的とした共同研究協定を締結しました。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



母乳育児に踏み込む政策を：世界栄養サミットに向けて

「グローバル母乳育児スコアカード 2021」は、7つの政策優先事項の主要指標を用いて各国の状況を調査したものです。

たばこ対策の進展と喫煙者の減少：WHO 世界たばこ動向報告書
世界の喫煙者は、13.0 億人となっています。

HIV・梅毒デュアル迅速診断検査キット
WHO が推奨する迅速診断検査は、検査を効率化し、HIV と梅毒の母子感染をなくすことができます。

2030 年までにすべての子どもたちに学校で給食を
「学校給食連合」のビジョンは、すべての子どもたちに学校給食を提供することです。

緊急事態のリーダーシップ能力開発プログラム
WHO と加盟国の 150 人のスタッフに能力開発プログラムを提供しています。

子宮頸がん撲滅：世界のリーダーたちが呼びかけから 1 年
子宮頸がんは、毎年 30 万人以上の女性の命を奪っています。

薬剤耐性結核：患者治療データの公開と募集

薬剤耐性結核治療のための患者個人データベースには、1 万人以上の治療成績が含まれています。

あらゆる災害による健康危機リスクを評価するツール

リスク評価の戦略ツール STAR は、公衆衛生リスクの戦略的かつデータに基づく評価を迅速に行うことを可能にする手法です。

ポリオ、依然としてとして国際的拡散が続く

ポリオウィルスを引き続き「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」であるとしてしました。

COVID-19 が引き起こす多系統炎症症候群の治療ガイドライン
小児 COVID-19 感染に伴って発生する多系統炎症性症候群の管理に関する最新のガイドラインを発表しました。

WHO とスペイン国立研究評議会が COVID-19 血清抗体技術の非独占的ライセンス契約
スペイン国立研究評議会と血清抗体技術のライセンス契約を締結しました。

淋菌の多剤耐性化とワクチン開発のガイダンス
ワクチンの適応症や対象となる人々、安全性と有効性の評価のための考慮事項などについてのガイダンスを発表しました。

インフォデミックに対する社会の課題とアプローチ (報告書)

インフォデミックの最重要課題とアプローチを特定しました。

パンデミック対応の改革、課題が山積 (WHO 独立委員会)
独立委員会は、5 月の最終報告の提言内容の進展状況を点検した報告書を公表しました。

新規病原体の起源に関する科学諮問グループ (SAGO) が始動
初会合を開催し、議長の任命などの手続きを行いました。

世界保健総会特別セッション：次のパンデミックへの検討に集中
総会では、パンデミックの予防、準備、対応に関する歴史的な世界協定の策定を検討します。

WHO マラリア用語集 (2021 更新)
マラリア用語集を更新しました。

COVID-19 変異株のオミクロンを「懸念」の警戒レベルに
新しい変異株を「Omicron」と名付け、懸念される変異株に指定しました。

11月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。

<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・メジナ虫症 ・都市の健康・マラリア ・健康の商業的決定要因(新設) ・気候変動と健康・リハビリテーション
- ・糖尿病 ・多剤耐性淋菌感染症 ・肺炎・薬剤耐性・青少年のメンタルヘルス ・性感染症(STI) ・HIV薬物耐性
- ・障がいと健康 ・HIV薬剤耐性



世界エイズデー (12月1日)

HIVは、何百万人もの感染者を生んでいる公衆衛生上の大きな問題。

国際障がい者デー (12月3日)

障がい者の健康に関する要求に十分に 대응することができる体制を整えている国はほとんどない。

子どもと青年人口に対するCOVID-19ワクチン接種の緊急性を子どもと青年に接種する必要性とその時期に関する新たな証拠を検討した結果を発表。

WHO 評議会報告書：保健医療に大胆な変化を

「Health for All」を実現するためにどのように統治しなければならないかを述べている。

パンデミックが提起するかつてない倫理的課題

倫理に基づいた公衆衛生上の意思決定を改善するためにはどのようなステップが必要かを議論。

医療施設でのWASHに関するグローバル進捗レポート：必須の設備を最優先に

WASHサービスにおける世界的な格差を明らかにしている。

世界保健総会：パンデミックの世界協定にむけプロセスを開始

パンデミックの予防、準備、対応を強化するための条約、協定等の世界的なプロセスを開始することを決定。

WHO などワン・ヘルスの新定義に賛意

専門家パネルが新たに策定したワン・ヘルスの運用定義を支持。

子ども虐待防止と子育て支援のポリシー

WHO や国連は、実証された子育て支援の施策が子どもの虐待やネグレクトを大幅に防ぐことができることを説明。

栄養不良の蔓延と代償：2021世界栄養報告

「現在の軌道を修正するための行動を起こさなければはるかに高い代償を払うことになる」と警告。

住血吸虫症：子どもたちの有病率が60%減少

サハラ以南のアフリカでは、過去20年間で住血吸虫症の有病率が約60%減少。

世界マラリア報告2021：昨年のマラリア患者数と死亡者数が増加
パンデミックにより患者数と死亡者数が著しく増加。

Gaviによるマラリアワクチンへの資金提供の決定に謝意

今回のGaviの決定により、多くの子どもたちが、救命ワクチンと追加のマラリア予防策の恩恵を受けることが可能に。

経済的価値観からウエルビーイングへの転換へ

人間開発の指標を、経済的なものから人々や地球のウエルビーイングに焦点を当てたものに変えていこうという国際的な動きが活発化。

食品安全のWHO世界戦略2022-2030(案)

安全な食品は、人間の健康を決定する重要な要素。

新たな決定で栄養目標への取り組みを加速

WHOは6つの新たな決定を発表。

トランス脂肪酸の規制は進展するも未だ十分でない

低所得国に住む人々は誰も守られていない。

COVID-19と健康の社会的決定要因：健康の公平性が悪化

パンデミックにおける健康の社会的決定要因の影響を、その不公平さに焦点を当てて検証。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



ヘルスプロモーション用語集 2021

これまでの用語集から大幅に変更。

幼児教育・ケア施設における健康的な生活行動基準とツールキット
幼児教育・保育事業者の健康的生活をサポートする基準。

仕事の世界の健康ネットワークが発足
仕事の世界の健康ネットワーク(H-WoW)を正式に発足。

淋病の薬剤耐性対策と新しいパートナーシップ
米国 CDC、約 30 の組織に資金を提供。

顧みられない熱帯病：トレーニングコースを拡大
6 つの多言語コースを用意。

サウジアラビア王国が支援：抗菌剤耐性 (AMR) 対策の強化へ
サウジ、2,160 万米ドルの任意拠出を発表。

WHO とグローバルファンド：貧困層などにおける健康格差に警鐘
HIV、結核、マラリアに関する世界の不平等の現状を初めて体系的に評価した報告書を発表。

HIV と共生する人々のケアの質の向上
各国の取り組みを詳述した行動指針が公開。

極度の貧困に追いやる医療費とパンデミック

貧困が拡大し、所得が低下し、経済的な困難がさらに強まる可能性があることを警告。

化学物質の危険性評価ツール

リスク評価情報の認知度を高め、その利用促進を目的としたツール。

パンデミックが女性への暴力を増加：世界の現状報告

各国の政策が国際的な規範や基準にどの程度合致しているかを提示。

飢餓・栄養不良を終わらせるフードシステムへ：情報概要

フードシステムを大きく変える行動を推進。

一人当たり年間 1 ドルの追加投資が 700 万人を救う

非感染性疾患の予防と治療のために 1 人当たり年間 1 ドル足らずの追加投資で、2030 年までに 700 万人近くを救うことができる。

健康に関する世界の支出レポート 2020

190 カ国の 2000 年から 2018 年までの健康に関連する医療費の動向について詳述。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジは、すべての人に公平で健康的な世界を意味する

UHC パートナーシップは、回復力のある公平な保健システムを構築することができるよう、各国に対する支援を実施。

非感染性疾患への投資と大きなリターン

非伝染性疾患分野への投資は、約 700 万人の命が救われ、2,300 億米ドルの経済的利益に。

テドロス事務局長：2021 年を振り返り将来への布石についてメッセージ

UHC を目標に PHC を基盤とした弾力的な保健システムに投資する必要性等を述べた。

その他にも以下の項目がありました。

- ウェルビーイング社会への道筋を憲章化
- HIV、梅毒、B 型肝炎ウイルスの母子感染防止の検証に関する最新のガイダンス
- ロックフェラー財団との協力関係を拡大へ
- コレクティブ・サービス：緊急時におけるリスクコミュニケーションなどを支援
- WHO リヨン事務所：健康危機へ貢献してきた 20 年
- 2022 年の世界禁煙デー『たばこ：環境への脅威』
- 小児がん治療薬の世界的普及を目指す
- 難民・移民の保健サービスに関する WHO の新基準
- Dr Ayoade Alakija を ACT アクセラレーターの特使に任命
- WHO の学習プラットフォーム OpenWHO.org の拡充と学習者
- 生鮮野菜、果物に使用する水の安全性と品質
- 米ノババックスのコロナワクチン、緊急使用承認リストに追加
- 5 歳未満の子どもの死亡率、SDGs 目標から大きく乖離
- 世界の健康 10 の挑戦 -2021 を振り返る

12月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。

<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・体罰と健康 ・中絶 ・鉛中毒 ・HIV/エイズ ・子どものがん ・マラリア



WHO：食品安全に関するオンラインフォーラムを立ち上げ

WHOは、食品安全に関するオンラインフォーラム（コミュニティ・オブ・プラクティス（COP））を立ち上げました。

パンデミック終息とエビデンスに基づく保健医療政策に向けて
確たるデータに基づいた意思決定は、人々の健康と幸福を向上させるために不可欠です。「エビデンスに基づく政策ネットワーク（EVIPNet）行動要請」は、将来の緊急事態や繰り返し起こる政治的・社会的課題に対し、強靱で公平かつ持続可能な保健医療体制に向けた健康政策立案のための道筋を示します。

世界ハンセン病デー：ハンセン病は社会差別の象徴

WHOハンセン病制圧大使の笹川陽平氏からメッセージ（要約）が発信されました。

てんかんなど神経疾患に関するグローバルアクションプラン（案）2022 - 2031

神経疾患は、世界的に障がい調整生存年の第1位、死因の第2位を占めています。神経疾患の世界的な負担は大きいにもかかわらず、これらの疾患に対する

サービスと支援の普及は、特に低・中所得国において十分ではありません。

COVAX、コロナワクチン 10 億回分を出荷

これまでの累計出荷数は 10 億回分に達しました。

健全な食生活の測定技術報告書：概念、方法、測定基準

食物食糧システムと食生活はあらゆるところで変化しており、世界および国レベルで食生活の健全度をモニタリングすることが重要になってきています。

IARC：1月は子宮頸がん啓発月間

1月は子宮頸がん啓発月間です。今年、国際がん研究機関（IARC）は、子宮頸がんの世界的な課題に取り組む IARC の影響を示す 3 種類の研究プロジェクトに焦点を当てます。

青少年の明るく健康的な未来のために（WHO 活動報告書）

青年期は、人間の成長におけるユニークで形成的な段階です。本報告書は、WHO の横断的な活動について述べたものであり、将来の経済と社会の発展がかかっている 10 ~ 19 歳の 12 億人を超える青少年の健康と人生の充実に取り組

むために WHO が行う活動を描いています。

世界「顧みられない熱帯病」デー 2022

1月30日（日）は世界顧みられない熱帯病（NTD）デーです。

WHO の学習プラットフォーム OpenWHO に待望の日本語教材
WHO 本部からの依頼に基づき、産業医科大学産業生態科学研究所と労働安全衛生総合研究所から 2 つの日本語教材が発行されました。

コロナ重症化は低下も「国際的な公衆衛生の緊急事態」は継続と判断

1月13日に開催された国際保健規則（IHR）に基づく WHO 緊急委員会において、新型コロナウイルスによる「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」が継続しているとの判断が出されました。

WHO：米環境保護庁と「環境と健康」で協定を継続

WHO と米国環境保護庁（EPA）は、環境と健康の問題に関して 5 年間延長の覚書に調印しました。

注）本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



家庭における調理用燃料と環境汚染

世界人口の3分の1にあたる26億人が、いまだクリーンな調理ができません。非効率的で汚染を引き起こす燃料の使用は、健康上のリスクです。汚染を生み出す燃料を使った調理は、健康を損なう最大の環境要因の一つとなっています。

WHO：国連「健康な高齢化の10年」の報告書要約を公開

WHOは「健康な高齢化の10年：基礎データ・報告書 - 要約」を国連の全公式言語で公開しました。この報告書はWHOが、「高齢期のウェルビーイング（福祉と幸福）を身体機能の能力を開発・維持するプロセス」と定義しているヘルシーエイジング（健康に老いる）を測定するためのデータをまとめたものです。

結核および薬剤耐性結核検査のための計画・予算作成ツール

結核、HIV（エイズ）および薬剤耐性の問題は密接に絡んだ公衆衛生の大きな課題ですが、世界全体では検査能力、設備・施設の不足から十分に問題を把握できていません。世界検査能力向上の取り組み

（GLI：Global Laboratory Initiative）は、WHOの世界結核対策本部（Global TB Programme）を事務局として、診断薬や検査用品の数量やコストを算出するための「結核および薬剤耐性結核検査の計画・予算策定ツール」を公開します。

WHO第150回執行理事会開幕：5つの優先課題

第150回執行理事会は、2022年1月24日～29日に開催されます。執行理事会は、最高意思決定機関である世界保健総会（5月22 - 28日開催予定）の下準備をする役割を負っており、総会が承認した国が選出する34名で構成されています（日本からは中谷比呂樹氏が出席）。

水俣条約の初期評価報告書レビュー：重要な知見を要約

WHOは、条約を実施可能なものとするため、2021年7月31日までに条約事務局に提出された59件のMIA（水俣初期評価に関するプロジェクト：Minamata Initial Assessment）報告書すべてと、2件の加盟国の実施計画書をレビューしました。

危険な中絶とケアの質：変化への行動が必要

危険な中絶によって、あまりにも多くの少女や女性が命を落とし、短期的・長期的な悪影響に直面し続けています。しかし、中絶関連の合併症を持つ少女や女性に医療従事者やシステムがどのように質の高いケアを提供するのがベストなのか、情報は不足しています。

「健康な高齢化の10年」の技術諮問委員会を設立

先に、「健康な高齢化の10年」の要約を公表しましたが、引き続いて測定、モニタリング、評価に関する技術諮問グループ（technical advisory group：TAG）を新たに設置しました。日本から近藤克則氏（日本老年学的評価研究機構 代表理事・千葉大学教授）が参加されています。

世界顧みられない熱帯病デー：すべての人に公平な医療サービスを世界顧みられない熱帯病デー（World Neglected Tropical Diseases Day；WNTDD）を記念して、WHOは、NTDの特徴である不平等に立ち向かい、影響を受ける最貧層や疎外された地域社会の人びとが必要な保健サービスを確実に受けられるように呼びかけています。

1月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・条虫症 ・囊虫症 ・リーシュマニア症 ・トラコーマ ・住血吸虫症 ・土壌伝播蠕虫感染症
- ・デング熱及び重症デング熱 ・ブルーリ潰瘍 ・フランベジア ・オンコセルカ症 ・ハンセン病
- ・マイセトーマ（菌腫） ・子宮頸がん ・統合失調症